

大震災と原発事故

学融合推進センター長 池内 了

このたびの東北・関東大震災で被災された方々にはお見舞い申し上げます。また、これにより、不幸にも犠牲になられた方々の冥福を祈りたいと思います。

マグニチュード9.0の大地震のすさまじさと、それによって励起された津波が大きくかつ短時間でやってきたこと、これらは1000年に1回の事象と言われており、全くの「想定外」であったと言わざるを得ません。まさに希に見る過酷な「天災」でした。

さらに地震と津波によって福島原発第1発電所において原発事故が勃発しました。さて、これは「想定外」であり「天災」なのでしょうか。私は「想定しておくべきこと」であったし、「人災」であると思っています。つまり、大量の危険な放射能を抱え込んでいる原発の安全性を考えるなら、いかなる規模の地震や津波も想定しておかねばならず、地震と津波が引き金になったにしろ、甘い想定と設計ミスが重なって今回の事故の拡大を招いたためです。原発事故はまだ進行中であり、現場では作業員の方々の苦闘が続いています。おそらく、まだまだ予断を許さない状況が続くでしょう。

この一連の経過を省みてみれば、「科学と社会」を考える上で多くのヒントを与えてくれたと思っています。科学者・技術者の社会的責任、天災と人災の区別、原発への考え方、放射線量の規制値とは何か、事実をどう人々に伝えるか、マスコミとの対応、短期の利益と長期の損失等々です。おそらく、あちこちで議論がなされていることでしょう。一段落したら、科学倫理や生命倫理について、センターとして討論会のようなものが企画できたらと思っています。

センター発足2年目に当たって、既定の事業だけでなく、このようなタイムリーな企画も進められるようにしたいと考えています。

学融合推進センター 運営委員・協力教員のご紹介

ニューズレターでは前々号より学融合推進センターの運営に携わっている教員の方々よりいただいたメッセージをご紹介します。

1. センター運営委員 片山 伸彦 教授（高エネルギー加速器科学研究科）

何も分からないで運営委員になって一年が過ぎた。学融合、文理融合を目指す本センターの役割とその難しさについては他の委員の方が既に述べられているので、少し違った話題を提供したい。それは大学院教育における社会的責任についてである。本センターの活動において、明らかには謳っていないが、例えば若手・女性研究者への支援は、本学が社会的責任を果たそうとしている事の現れであろう。各基盤機関においても、研究機関としての社会的責任の果たし方に関しては、議論され、実施されていると思うが、それとは違った視点で、また基盤機関を超えた結びつきによってのみ行える活動もあるのではないか。

総研大における社会的責任の果たし方で最も重要なのは、出来る限り多くの卒業生が研究者として自立し、社会に受け入れられる事であろう。変化の激しい現代におい

て、大学院で学んだ分野で一生涯研究を進める必要はない。優れた学生は別の分野でも必ず優れた業績を生み出す事ができる。学生が卒業する前に立ち止まって自らの将来と研究を考え、他の分野の研究者等と意見を交換する機会を与える事はできないであろうか？ 昨年は他基盤機関に武者修行に行くプロジェクトも行われた。私は学融合推進センターはこういう活動の母体となるべき組織であると思う。来年度はそのあたりを意識して、運営委員会に参加して行きたい。

2. センター運営委員 長谷川 真理子 教授

(先導科学研究科・センター協力教員)

葉山高等研究センターと称していたものは、学融合推進センターとして生まれ変わった。この3月には新しい建物も完成した。このセンターがどのような活動をしていくのが全学にとってもっとも望ましいのか、私たちは現実に何ができるのか、私自身、本当のところはまだ模索中である。

かつて、シチリア島の古い町、エリーチェにあるエットーレ・マヨラーナ研究所というところに行ったことがある。14世紀の修道院を改装し、国際会議や研究会を開催する場所だ。テーマごとに国際的に研究者を集め、数日の滞在だが、朝から晩までインテンシブな議論が続けられる。途中で観光エクスカーションもあり、ともかくもみんながずっと一緒にいるので、研究の話もプライベートの会話も進み、全員が仲良しになる。このような研究会を年間10ぐらい走らせているのではないだろうか？ 研究所は、テーマ企画を選考し、滞在費を支給する。10年の間において異なる研究会に2回参加したが、いずれも大満足の会議であった。

シチリア島という立地も、14世紀の修道院という舞台設定も素晴らしい。葉山がこれをまねることはできないが、何か、こんな雰囲気の研究会在年中開かれているところ、というイメージにできないだろうか？と夢想している。

学融合研究事業

1. 公開研究報告会の開催報告

1月20・21日の二日間に渡り、湘南国際村センターにて公開研究報告会が開催されました。今回の報告会では平成22年度に学融合研究事業の公募型共同研究に採択された10件の研究プロジェクトがプレゼンテーションによる発表を、若手研究者研究支援と女性研究者研究支援で採択された19件がポスターによる発表を行いました。

開会時に学融合推進センター長の池内先生よりご説明がありました通り、今年度は採択の結果が出たのが夏頃であったため、約半年という短い研究期間でしたが、研究内容の紹介と途中経過の報告という観点から報告会を実施することになりました。二日間で約60人程度の総研大の研究者及び協力研究者が会場に訪れ、各研究課題について様々な議論が行われました。

閉会前にいただいたコメントでは「研究の内容はどれも面白く、他分野の研究者との議論を楽しむことができた。」という一定の評価をいただいた一方で、「このような研



先導科学研究科
渡辺正勝教授のプレゼンテーション風景



高エネルギー加速器科学研究科
郡和範 助教のポスター発表風景

究会で他分野の研究者に自分の研究を理解してもらおう」ことの重要性や「来場者がもっと積極的に議論に参加すべきでは」といったご指摘や、学融合研究事業の今後の方針についてのご意見も色々いただきました。

この公開研究報告会は来年度以降も継続的に開催する予定であり、今年度の経験を活かして更によいものへと改善していくことが重要だと考えております。ご参加いただきました皆様にはこの場を借りまして御礼申し上げます。

2. 平成23年度 研究助成事業の新規公募について

平成23年度公募型共同研究・若手研究者研究支援・女性研究者研究支援の新規公募が2月中旬より行われ3月末に申請が締め切られました。今年度の募集では公募型共同研究の中に昨年度同様に多分野間の共同研究を支援する「共同研究支援」と調査活動や研究会の開催を通じて新たな視点や手法を検討することによって新たな研究課題を創出する活動を支援する「新課題抽出支援」の2つの枠が設置されました。これにより、本学の研究者が協力し、実施する幅広い研究活動に対しより一層のサポートが可能になると考えております。

今年度も30件を超える新規研究課題の申請があり、昨年度に採択された継続研究とともに書面・ヒアリングなどの審査を経て5月中に採択課題を決定する予定です。審査結果につきましては次号のニュースレターにてお知らせいたします。

学融合教育事業

1. 平成23年度 全学教育事業の募集について

総研大全学教育事業は、本学各選考における基盤機関の人的・研究環境を活用した専門的な大学院教育を行うことと併せ、各専攻との連携によって高度の専門性と広い視野を併せ持った研究者を要請する為の総合的な教育を行うとする本学の理念に基づき、各専攻・各研究科横断型教育事業、全学交流型教育事業、学生企画教育事業の3事業区分で教育プロジェクトに対し助成を行っています。

今年度の公募では3件の新規事業を含め全体で16件の申請があり、3月9日に都内にてヒアリングが行われました。採択の最終決定は4月中を予定しておりますので、結果につきましては次号にてお知らせいたします。

学融合推進センター棟 開所式・科学映画祭 開催

この度、学融合推進センター棟が完成し2011年の春に、開所の運びとなりました。学融合推進センターは各専攻を繋ぐ役割を担っており、センター所属教員のオフィススペースの他に、基盤研究機関から訪れる在学生や教員が闊達な議論を行うことのできるクリエイティブスペースも新棟には設置されています。4月27日に開所式として式典と施設見学会を行います。また、それに合わせて科学映像祭を開催します。はじめに往年

の科学映画の名作『霜の花』（1948）、『或日の干潟』（1940）を上映します。続いて、総研大における科学映像への取り組みの成果として『世界のはじまりの実験—KEK の Belle 実験』（2007）を上映し、制作者による解説、さらに、制作者と来場者を交えて、科学映像の役割について意見交換の場をもちたいと思います。翌 28 日にも、総研大および基盤研究機関の作品として『サンチャゴ・デ・コンポステラへの巡礼』（2007）、『国立極地研究所—板橋時代の記録』（2010）、そして、総研大レクチャー「学術映像の基礎—みる・つくる」の受講生の作品を上映します。こちらも制作者による解説を予定しています。

センター棟開所式及び科学映画祭のスケジュールは、下記のとおりです。是非ご参加下さい



(文責：学融合推進センター 助教 眞山聡)

平成 23 年 4 月 27 日 (水)	式典	13:30~14:30	学融合推進センター棟 1 階
	施設見学会	14:30~15:00	学融合推進センター棟 1 階
	科学映画祭	15:00~17:00	学融合推進センター棟 1 階
	祝賀会	17:30~19:00	湘南国際村センター (会費 3000 円)
平成 23 年 4 月 28 日 (木)	科学映画祭	9:30~12:00	学融合推進センター棟 1 階

(詳細は本学ホームページをご覧ください。なお、地震等の影響によっては中止となる場合もございます。あらかじめご了承ください。)

学融合推進センター 事業予定表

学融合推進センターでは4月から7月にかけて現在のところ予定されている事業は以下の通りです。先日公募が行われました全学教育事業の審査の結果により下記以外の事業が実施される場合もございます。また、東北地方太平洋沖地震や福島第一原子力発電所の今後の状況により予定されている事業に中止・変更などの影響が出ることも考えられます。各事業の詳細・実施状況につきましては本学のホームページにてご確認ください。

4月7日・8日	総研大 前学期 学生セミナー
4月27日・28日	学融合推進センター棟竣工記念式典
6月16日～	JSPS サマープログラム

総合研究大学院大学 HP: <http://www.soken.ac.jp/event/index.html>

編集委員会より

3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震は東北地方各県を始めとし、日本全体に大きな影響を及ぼしております。被災されました皆様には、ニューズレター編集委員一同、心よりお見舞い申し上げます。

この地震では生活環境だけでなく研究環境にも長期的な影響が生じることが予想されますが、本学にて実施される教育・研究活動も様々な形で今後の復興に貢献することができないのではないのでしょうか。学融合推進センターも発足より1年が経ち、葉山キャンパス内にセンター棟も完成いたしました。本年度も本学の教育・研究活動を支援すべく活動して参ります。引き続きセンターの活動にご理解、ご協力のほど宜しくお願いいたします。次号のニューズレターは7月の発行を予定しております。

(文責：学融合推進センター 助教 見上公一)

学融合推進センター HP: <http://center.soken.ac.jp/index.html>